



札幌部会(第9回)	
日時:	2014年2月1日(土) 14:30-17:00
場所:	Sapporo55ビル 5階 キャリアバンクセミナールーム
参加者:	野間(同志社大)、濱地(道教大札幌校)、川瀬(札幌開成高)、則末(北海道札幌手稲高)、中村(札幌光星高)、山下(札幌市立真駒内曙中)、兼間(札幌市立定山溪中)、竹内(浦河町立浦河第一中学校)、吉岡(滝上町立滝上中)、山崎(北海道北見北斗高)[順不同]
<p>【内容要旨】</p> <p>1. 野間先生より、東京部会レポートに基づいて、来年度の夏休み経済教室、年次大会、川口WSの説明及び、各部会、福井WS、神奈川三浦WSの報告があった。続いて、大阪ネタ研の李先生の需要と供給曲線を用いた実践と、東京部会の塙先生の法と経済の内容を取扱った実践が紹介された。</p> <p>2. 川瀬先生より、</p> <p>① 札幌旭丘高校教諭時代の「時事問題解説」(2005年度・2007年度)における課題研究的な実践について報告があった。内容は、『北海道2030年の未来像』(日本経済新聞社)や朝日新聞の社説を用いて、2030年の北海道についてどのような指摘がなされているかをレポートにまとめさせ、北海道の未来予測を現状分析に基づいて構想してポスターセッションを行わせたものである。この実践は、大学受験を控えた進学校の高2、高3の生徒に資料活用、言語力を育成しようとしたことに特徴がある。この点に関連して、山下先生より中学校3年生社会科副読本『10年後の札幌はどうなるの?』の説明があった。</p> <p>② 川瀬先生が非常勤で担当された北教大札幌校の「地理歴史科教育法」集中講義(平成17年度)の「教材資料編」の資料について報告があった。これは、徳川家康の手形や、中国の人民元の資料など全100頁に渡る膨大な資料であり、参加者の今後の授業開発の参考になればと紹介された。続いて、同「教育資料編」の資料について報告があった。これは、高校入試問題が「知識・理解」重視から「思考・判断」重視に変化した事例や作問の観点などが示されたものであり、参加者の今後の作問の参考になればと紹介された。</p> <p>3. 兼間先生より、「入試問題を利用した授業」の資料に基づいて、札幌市立平岡中教諭時代の秋田県入試問題を活用した実践について報告があった。問題内容は、租税、ハタハタの漁獲量と価格の変化、ロシアに進出している日本の自動車企業の将来計画についての3問である。参加者からは、秋田県の入試問題は、グラフの読み取り問題中心で良問が多い点や、ハタハタの漁獲量が激減した理由はなぜかという点についてコメントが出された。</p> <p>4. 山崎より、北海道高等学校教育研究大会地歴・公民部会発表資料「郡部と都市部の生徒は農業問題をどう見ているか?」に基づいて、アメリカの経済概念学習の方法を用いて「見方や考え方」を深める授業実践と、郡部と都市部の生徒の認識変容について発表があった。野間先生からは、「農家への戸別所得補償をすればいい」という生徒のコメントを上手に拾って、比較優位にある「自動車産業の利益を農業に回す政策」に触</p>	



れる点についてアドバイスがなされた。その他、参加者からは、広島型、筑波型の学習指導案の形式や、20項目の『CEEスタンダード』の中学校での取扱い方法、今後、札幌市内の高校や中学校でも追試をして効果を検証してみたらどうかというコメントが出された。

(文責:北海道北見北斗高等学校 山崎 辰也)

次回開催予定:5月17日(土)14:30~17:00。場所はSapporo55ビル5階キャリアバンクセミナールーム。議題は、北海道ネタの教材交流、参加者からの活動報告、その他。